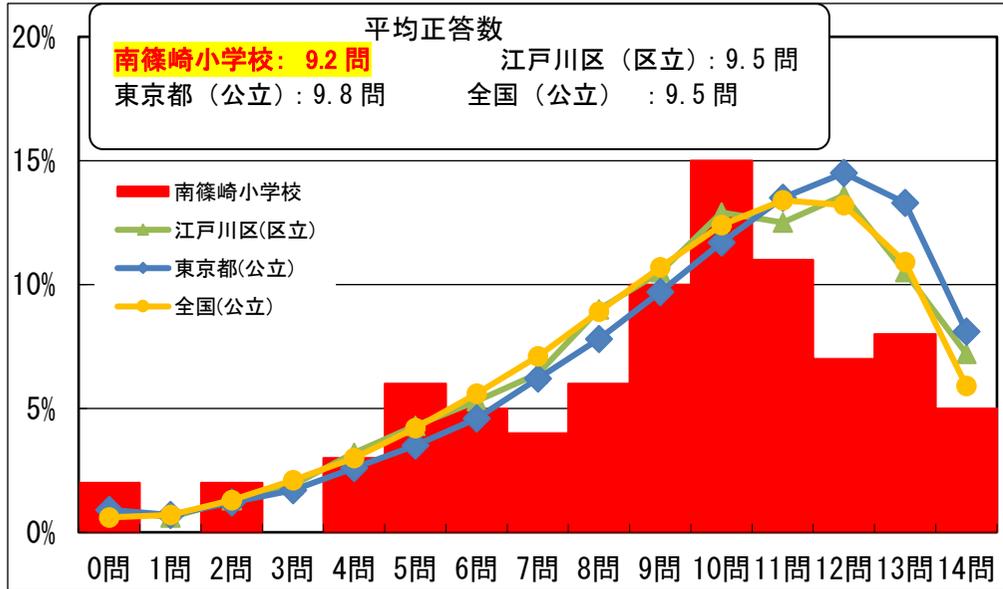


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】南篠崎小学校

正答数分布



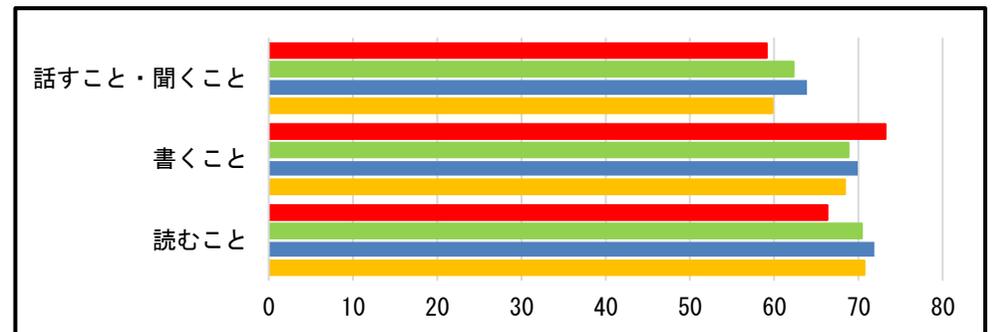
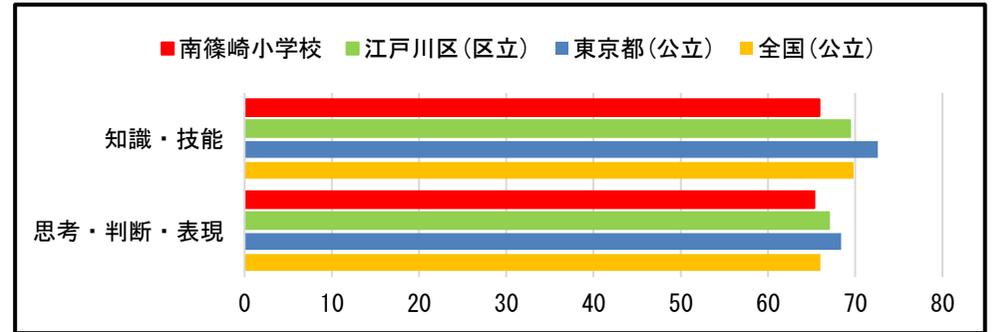
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14 問	B層 10~11 問	C層 8~9 問	D層 0~7 問
南篠崎小学校	23.8	31.0	19.0	26.3
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

南篠崎小学校	66%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	4ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

- 「知識及び技能」における『言葉の特徴や使い方に関する事項』では全国から約8ポイント下回っており、言語活動の充実を図るための授業の工夫を考えるとともに、児童が身の回りの日本語についての興味関心をもたせられるような主体的な学習から、日本語の特徴や使い方に関する知識・技能の向上をめざす。
- 「思考力・判断力・表現力等」における『書くこと』については、全国、東京都の平均より上回っている。ただ、問題形式の短答式に関する正答率は全国・東京都の平均正答率よりも下回り、普段の授業において、叙述をもとにして考える活動を取り入れつつ、実態に応じた指導法の工夫を図る。